カトリック福岡教区報

ヨゼフ アベイヤ司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行人　カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-4059
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　1部70円

2027年7月16日　福岡教区は創立100周年を迎えます。

2024年11月24日　世界青年の日にあたって

疲れていますか

ヨゼフ・アベイヤ司教（福岡教区長）

「世界青年の日」は、1984年、贖いの聖年の閉幕ミサで聖ヨハネ・パウロ2世教皇が、世界の青年たちに、翌85年の受難の主日にローマに集まるようにと呼びかけ、世界の約60カ国、30万の青年が、教皇の呼びかけに応えてローマに集まったことに始まり、翌86年から受難の主日に祝うようにと定められた。以来、毎年この日に、世界の青年たちに向けて「教皇メッセージ」が送られている。※教皇フランシスコは各方面からの要望にこたえ、2021年から「王であるキリスト」の祭日に変更することを発表した。

今年は11月24日です。教皇は、その日に毎年青年たちにメッセージを送ります。今年も同様です。メッセージの最初に教皇は、イザヤのことばを借りて青年たちを励ます。「主に望みをおく人は、歩いても疲れることがない」（イザヤ40・31）。本当にそうでしょうかと考える人もいると思います。歩いたら疲れますし、無理をすると体を痛める可能性もあります。物理的に「歩む」ことについてそうであるように、「人生の道を歩む」ときでもそうです。確かに、疲れを感じるときがあります。特に、現代のような劇的な状況を考えるとその疲れは重いものになります。戦争、あらゆる形の暴力、差別、不正、人身取引、自然破壊などにさらされている現代社会の中で希望をもって歩むのは簡単なものではありません。どこから歩み続ける力をいただけるのでしょうか。イザヤのことばは、非常に苦しい状況に置かれていた人々に、その源泉を示します。「主に望みをおく人は、歩いても疲れることがない」（イザヤ40・31）。

ガリラヤでの活動が終わってエルサレムに向かって行くイエスは、将来に対する深い不安を抱いている弟子たちに、様々な表現を通して、「疲れていますか」と確かめます。何も答えず、ただ歩み続けるイエスを見つめる弟子たちは、どこからそのための力を得ているかを考えたと思います。辛いこと、理解できないことがあっても、天の父はご自分の子らを見捨てないという深い確信が、イエスの歩みを支えていました。

そのイエスに目を向けるよう教皇は青年たちに呼びかけられます。イエスとともに歩むなら、何があろうとも目的地にたどり着きます。ただ、そのためにはリスクを取らなければなりません。「希望の巡礼者」として、天の父が望んでおられる世界を求めて歩んで行く決意を新たにするように教皇は呼びかけておられます。

イエスとともに歩むなら

「王であるキリスト」の祭日は、カトリック教会で「世界青年の日」になっています。

カタラント開設の懇親会でソーラン節を披露する福岡教区の青年たち

福岡教区の青年たちの活動

11月4日（月・振休）に福岡青年大会が旧神学院で行われます。青年たちは一所懸命準備してくださっています。テーマは「COME AND SEE！境界をこえてイエスのもとへ」になっています。共に歩む力をいただく場になると確信しています。また、大名町の福岡カテドラルセンターに、今年4月の終わりから「青年センター・カタラント」ができました。少しずつ活動を充実していきます。

これらの企画を実行していく中で「疲れ」を感じるときがあります。イエスとともに、また、仲間とともに歩むなら、この疲れが癒され、希望が生まれます。各地区の青年の歩みを皆で支えていきたいのです。教会全体はそれによって力づけられます。「疲れた」という誘惑が何回も表れます。イエスとともに歩むなら、将来に向かう私たちの心は喜びと希望に満たされます。そうであるように祈りたいのです。ヨゼフ・アベイヤ

菊地功大司教、枢機卿に

© カトリック東京大司教区

教皇フランシスコは、10月6日（日）正午、バチカン・サンピエトロ広場に集まった巡礼者や訪問者に向けての「お告げの祈り」を祈る際、12月8日（日）の枢機卿会議において、21人の枢機卿を親任することを発表。日本からは、菊地功大司教（東京大司教区）が選ばれた。

枢機卿はローマ・カトリック教会で教皇に次ぐ高い位で、80歳未満の枢機卿は教皇を選ぶコンクラーベでの投票権を持つ。日本人としては、2018年に選ばれた前田万葉枢機卿（大阪高松大司教区）に次いで、7人目の枢機卿となる。

菊地功大司教は1958年11月1日、岩手県宮古市に生まれる。1986年に司祭叙階。2004年5月14日新潟教区司教に任命され、2004年9月20日司教叙階。2017年10月25日東京大司教に任命され、2017年12月16日着座。今日に至る。

11月の意向

教皇の意向のために祈りましょう

【教皇の意向】子を失った親

【日本の教会】日韓司教交流会

第3回　教区全司祭集会

病気や障がいとともに生きている方に対する心の支援について

2024年9月24日（火）、カトリック大名町教会にて本年度第2回福岡教区全司祭集会が行われ約40人の司祭が集まった。前回は障がいのある方、そのご家族、支援者の方々の声に耳を傾けた。今回はその流れを継ぎ、障がいのある方、精神疾患のある方への関わり方、知識などを専門家である原口芳博氏（原口カウンセリングルーム所長）から、「病気や障がいとともに生きている方に対する心の支援」について話していただき、原口さんの50年以上にわたる「心の病のある」人々との関わりの中で、それぞれの司牧で活かすヒントを頂いた。話の中で、統合失調症、抑うつ症群、自殺願望、認知症、心的外傷後ストレス障害、摂食障害、ひきこもり、学習障害、児童虐待、障害者虐待、高齢者虐待、グリーフケア、アルコール依存症、ハラスメントなど、多岐にわたる様々な先天性、後天性の心の病と対応について学んだ。

「私たちは、心の病のある方々を同じ人間として、寄り添い、救いを求める『求道者』として温かく迎え入れるように努める。回復を信じて傾聴し、その人の隣人となり続けること、また、黙想と祈りを通して相手との豊かな出会いの準備（魂・体・心・環境）をし、心身を鎮め良き『神の道具』となれるよう自分を整えておくことも大切である」と、原口氏は語る。また、「聖霊の働きを感じながら、神の道具として相手の心に愛をこめて接していくことで、相手に希望と勇気、自分で解決する力が湧くようにサポートする関わり方も大切である」と話す。自分たちの力を過信することなく、支援が難しい場合は、速やかに適切な機関や専門家に委託することも必要である。相手に寄り添いながら、その人にとって一番良い支援を模索してくことが何よりも大切であると感じた。

午後は、福岡教区創立100周年に向かって取り組みたい課題についてアベイヤ司教から提案があり、①私たち司祭の刷新と司祭職への召し出しの推進、②教区や地区の宣教司牧評議会と委員会の働きの充実、③教区創立100周年のプログラム、④集会祭儀の実践とその司会者の養成、⑤青少年司牧の課題、⑥教区の財政について審議を行った。

報告＝桑原篤史神父（笹丘教会助任・聖アウグスチノ修道会）

講話に耳を傾ける司祭たち

時の話題

福岡教区信徒使徒職協議会解散

全世界に分断と閉鎖をもたらした新型コロナウイルス。コロナ禍明けのIT進化は時間、仕事、ライフワークを一変させ、それは信仰生活、教会活動をも変えてしまいました。中でも、53年間続いた福岡教区信徒使徒職協議会の解散もその一つです。少子高齢化、司祭修道者の減少、神学院の閉鎖、各地区における役員への負担等様々な要因があります。長らく支えて下さった信徒の皆さま、歴代、現在の各地区の代表者、アクション団体の皆さまに感謝を捧げるとともに、お詫びを申し上げます。現在は、教区長アベイヤ司教様のもと、福岡教区宣教司牧方針が発信され、教区宣教司牧評議会の設立に伴い各地区にも宣教司牧評議会が設立され活動しています。

2023年に教区100周年を迎えた広島教区の各教会は、「平和の使徒になろう」を掲げ、一致団結し平和を叫び続けてきました。そして遂に、10月11日（日本時間）被団協（日本原水爆被害者団体協議会）にノーベル平和賞の受賞が発表され、平和の使徒を証しする市民、信徒の耳に届きました。福岡教区の私たちは何を掲げていきましょうか。

10・27日（日）には、福岡地区信徒使徒職協議会が開かれ、これからの活動を提案する予定です。「恐れることはない」と主の言葉が響きます。多様性の世の中で、「出向く」「支え交わる」「未来を開く」を推し進める司牧方針のもと、中心となる教区宣教司牧評議会とその中の5つの委員会を、私たち信徒は、すべての垣根を越えて支える友愛の使徒になりたいものです。

福岡教区信徒使徒職協議会
会長　濱崎　公夫

みちくさ

コロナ禍でミサ参加が自粛されていたころのこと。ネット配信のミサに与っていると、手元に置いたスマホに「主の平和」と書かれた挨拶メッセージが届いた。思いがけない平和の挨拶は、孤立でなく繋がっていると感じた瞬間だった▼ある巡回教会の土曜日のタミサに参加したときのこと。早めに行って着席していると、年配の夫婦が「主の平和」と言いながら入ってきた。とまどいつつも真っすぐに「主の平和」と挨拶を返した。「主の平和」と挨拶し合う声が周りからも聞こえた▼知り合いのシスターが電車に乗っていたときのこと。横に長いロングシートの車両に座っていると、向かいの席でTシャツと半ズボン姿の若い男性がサンドイッチをぱくついていた。若者は降りる駅に到着すると、すっとシスターの前に来て「主の平和」とにっこり笑って挨拶をして降りて行った。シスターは「初めての経験でした」と嬉しそうに話した▼8月に大名町教会で開催された教区主催の「平和を祈る集い」の中で、「平和に対する主張」発表会があった。発表者の一人が、「あなたがたに平和があるように」（ヨハネ20・19）は、神だけが与えることのできる平和で、私たちへの神の贈り物であると話した。主イエスの平和を、出会うすべての人と分かち合いたいと言う発表者の主張には、深い祈りも感じることができた▼「主の平和」はミサの中だけでなく、様々な手段を通して交わす挨拶であり、この世界で平和を実現するための「祈りの分かち合い」でもあることに気づかせてもらった。感謝（G）

多くの人の歓声と歓喜に包まれて
祝 山頭原太郎神父100歳誕生日

厚生労働省が、9月15日時点における年齢を基礎として、100歳以上の数を計上した2024年の結果は、全体で95,119人。男性11,161人、女性83,958人で約88%が女性であった。

「人生100年時代」と言われ始めて久しいが、内12%の男性の中に、我が福岡教区の司祭がいる。ミカエル山頭原太郎神父、1924年9月20日生まれ、100歳！紀寿を祝う記念感謝ミサが9月22日（日）、ヨゼフ・アベイヤ司教（福岡教区長）主司式のもと久留米教会にて捧げられた。ミサには、山頭神父が泰星高校（現上智福岡高校）で教鞭を執っていた時の教え子でもあった森山信三司教（大分教区長）も駆けつけ、他司祭12人による共同司式で、信徒も午前中の主日のミサに参加したのち、多くの教会から集まり200人が聖堂を埋めた。

アベイヤ司教（右）とミサの中で「主の平和」を交わす共同司式の山頭神父（左）

アベイヤ司教が、山頭神父の70年以上にわたる奉仕への感謝とその業績を讃えて始まったミサ。「優しい司教さまが、『説教は山頭神父様で』と残酷なことを仰ったんです」といつもと変わらずユーモアを交えて話す山頭神父は、「人に支えられてしか生きられないようになってやっと横着だった自身を恥じ、今は心から感謝しています。学校畑で司祭としての奉仕は少なく失敗ばかり。今はミサが出来る喜びを感じ、皆さんのために祈り続けます」と話した。挨拶に立った森山司教は「神父様は自分の人生は失敗ばかりだったと仰るが、自分の弱さをありのままに表されることに、これだけ集まった信徒や司祭の私たちもどれだけ勇気づけられ、力をもらったか分かりません。なので立場上被っているこの帽子は神父様もふさわしいと思います」と、自分のズケットを山頭神父に被せた。

ズケット（ピンクの帽子）を山頭神父（左）の頭に被せる森山司教（右）

山頭神父は現在、久留米にある介護老人保健施設「聖母の家」で生活していることもあり、久留米教会が記念ミサを計画した。「県内外から多くの人が集まり、山頭神父様の人気ぶりを再確認した。大変喜んでおられたので、私たちも達成感で、準備や当日の案内・進行等の疲れが吹き飛んだ」と担当者たちも感無量で喜びを分かち合っていた。

最後の集合写真の後、「次は私たちと！」とひっきりなしの個人撮影の願いに応じていた山頭神父は、羊のにおいのする牧者そのものであった。

◆ 福岡教区宣教司牧方針を受けて ◆

2022年4月、福岡教区の「宣教司牧方針」が発表されました。教区報では、「宣教司牧方針」を受け、各小教区や団体で取り組んでいること、心がけていることなどについて具体的な活動を紹介しています。

「宣教司牧方針」は右記QRコードからご覧になれます

カトリック学校の取り組み

研修会の様子

8月2日（金）、旧カトリック神学院で「福岡教区カトリック学校中堅教職員研修会」が開催されました。コロナ禍での中断を経て開催された研修会には、福岡教区で活動する12の小学校、中学校、高校から先生方が集まりました。

冒頭アベイヤ司教が、盲人の目を開かれたイエスについて触れ、立ち止まり歩み寄っていくイエスの中に、カトリック学校で働く者のモデルを示されました。その後も美野島司牧センターのマルセル・コース神父、イエズス会の梶山義夫神父が講話を行い、グループで分かち合うという充実した1日をもちました。

ところでこの研修会の参加者の多くが、今の学校に勤めるまでカトリックやキリスト教とは縁のなかった先生方です。ご存知のように学校現場で働く司祭・修道者がほとんどいなくなった現在、信徒の教員と一緒に学校説明会でカトリック学校についての説明をしたり、校内でのミサや宗教行事を運営するのは、このような先生方なのです。信徒ではない生徒たちも学校でイエスの教えに触れ、祈りや奉仕の心を身につけて社会へと出ていきます。このように福音宣教の場であり教会の一部でもあるカトリック学校が、多くの信徒でない先生方の理解と協力の上に成り立っていることをより深く正しく知ること、そしてともに協力することが私たち教会共同体に求められています。まずは平和を祈る集いや炊き出しなどに参加するカトリック学校の生徒たちに関心を寄せ、仲間として声をかけてみてください。

上智福岡中学高等学校　深堀伸一（大名町教会）

より豊かな会話のために
～教区宣教養成委員会　講演会～

児島氏の講演の模様

9月23日（月・振休）、大名町教会講堂で、「つながる喜び～より豊かな〝会話〟の中で心に届く言葉を養うためのヒント～」と題して講演会が開催された。主催は教区宣教養成委員会（委員長 レナト・フィリピーニ神父）。講師は心身障害者施設や病院、企業での指導員、大学教員を経て、現在フリーで活躍している臨床心理士の児島達美氏（浄水通教会）。来場者は75人。

講演より一部を紹介する。「私たちは日常の挨拶から大切な話し合いまで、言葉を使っていますが、その言葉は果たして相手に届いているのでしょうか。言葉は話し手から聞き手に届いたとき、はじめて意味を持ちます。実は言葉は、それだけで全部が伝わるわけではなく、言葉を発しているときの顔の表情や言葉の調子、身振りを見て感じて、聞き手は相手を受け止めます。同じことがらであっても、相手や場面によって話し方も聞き方も変わります。聞き手は、分からない時には尋ねて確認し、そして互いに『聴きあう』こと、相手の気持ちに寄り添う『共感』も大切です。簡単ではありませんが。私たちはお互いそれぞれが違う存在であることを前提に、ほどよい信頼関係を築いていければ、いいつながりが生まれるでしょう」

来場者からは「日頃の会話での自分の態度について再考させられました」、「夫婦間、親子間の会話を見直したい」などの声が寄せられた。

遠藤周作　生誕100周年　記念講演会
テーマ「心のふるさと日本を語る」

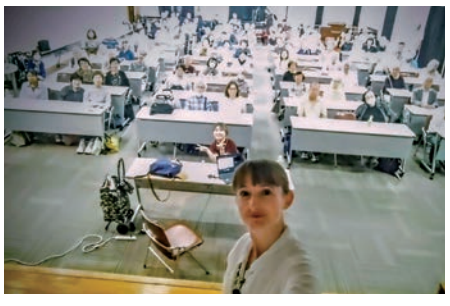
10月6日（日）、大名町教会講堂で福岡地区信徒使徒職協議会主催による、ユスティナ・ベロニカ・カシャ氏（西南学院大学・外国語学部外国語学科教授）の講演会が開催され、約120人が集った。講演のタイトルは「2024年遠藤周作生誕100周年～心のふるさと日本を語る」。

カシャ氏はポーランドで生まれ、日本語研究者の父親と共に来日し、2歳から8歳まで札幌で生活。帰国後、日本文学や演劇を学び、英国で日本文学博士号を取得。

主の祈りを皆で捧げ、ハーモニカ伴奏で「ふるさと」を斉唱して講演は始まった。複数の言語を話すカシャ氏は「言葉とは自由を与え、他者との出会いを生むもの」として、自身の生い立ちや経歴を語り、「文学には他者の声を聴くという大切さがある」とし、遠藤周作を主とする研究の話や今後の抱負を語った。

「翻訳の難しい所は」との会場からの質問に、「日本語には『沈黙（の時間）』にも意味があり、外国語に訳す適した言葉が無いものもあるが、出来不出来でなくプロセスが楽しい」と答えていた。教えることが好きだと言うカシャ氏。質問に生き生きと答えるところには日頃の大学で教鞭を執る姿が想像できた。

会場からは、「もう一度読書を楽しみたい」「先生の本が読みたい」「先生が『毎週のミサから力を頂いている』という話が心に残った」などの声が聞かれた。最後は皆でアヴェ・マリアの祈りを唱え、カシャ氏自ら会場の写真撮影を行った。


講師（中央）自ら自撮り棒で撮影！

福岡地区信徒使徒職協議会
副会長　原桂子（老司教会）

諸宗教対話
立正佼成会のもてなしに感謝

「もう、対話を超えて友情関係にある」。諸宗教対話をリードするフランコ・ソットコルノラ神父（聖ザベリオ会）にこう言わせる教団、立正佼成会との対話・交流はすでに30年の歴史を持つ。暑さの厳しい7月28日（日）、立正佼成会熊本教会を訪問した。12年ぶり4回目の交流である。先方の顔ぶれはほぼ一新、でも空白を感じさせない温かな言葉が行き交い、渡部江身子教会長をはじめ20人を超える信者さんの歓迎を受けた。

立正佼成会の開祖及びその身内、指導的立場の人たちとシスターマリア・デ・ジョルジとの交流は、ローマのグレゴリアン大学や、各地での宗教者会議を通して深まっている。その様子が画像で紹介されると、その親密ぶりに驚きの声と歓迎の笑いが起こり、一段と和やかな雰囲気が流れる。教会長から紹介された「一食運動」（月に2回一食を抜いて空腹感を味わい、その分の金額を献金する運動）の援助を受けたカトリック教会の2つの活動団体から感謝の報告もあり、参加者のだれもが立正佼成会との交流の深まりを実感する集会となった。報告＝長濵總（八代教会）

サンパウロ
福岡宣教センター
営業時間：
10:00～18:00
定休日：日曜日・祝日
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26
tel. 092-721-2032 ／fax. 092-739-3930
E-mail: fukuoka@sanpaolo.or.jp
レジナ アポストロールム

不動産全般／売買・賃貸・管理
なんでもお問い合わせください
㈱ジャパン・スマイルか
代表取締役　マルガリタ・マリア 吉田由利子
〒810-0044 福岡市中央区六本松4丁目9番4号
TEL 092－761－8800
http://www.iruka-japan.com/

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811－7265

別れ・出逢い・旅立ち
草苑〔SOU-EN〕
カトリックのご葬儀
互助会制度もご利用できます。
木下株式会社
TEL 092－526－5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

知りたい！ 福岡教区内の修道会 宣教会㉖

福岡教区には現在30の修道会・宣教会から司祭・修道士・修道女が派遣され、それぞれのカリスマで働いておられます。

昨春より紹介している、その修道会や宣教会。第26回は、お告げのマリア修道会です。

お告げのマリア修道会

「お茶にしましょう！」

私たちお告げのマリア修道会は1873年（明治6年）、日本の記念すべき禁教令解除の年の翌年に芽を出しました。「創立者は神様」と創立者を特定していない修道会は稀でしょう！

種をまかれたのは神様、種を受けたのはキリシタンの乙女たち、そして水をやり育ててくださったのはパリ外国宣教会（パリミッション）と教区の司祭たちでした。当初より司祭・教区が一体となって地域の中で歩み続け、今に至っています。

本部を含め30あまりの支部はほとんど長崎にありますが、東京の駐日ローマ教皇庁大使館、福岡（来年3月までの予定）、フィリピン（去年より活動）でも小さな奉仕をさせていただいています。日々をキリストの愛の掟に従い、神とともに生きることを第一の基準として、「私は主のはしため、お言葉通りになりますように」と言われたマリア様のフィアット（Fiat）の精神にならって、教会への奉仕、医療事業、社会福祉事業に携わっています。

私たち福岡修道院は2人だけですが旧神学院にひっそりと暮らしています。その中で毎週日曜日の午後3時～4時まで小さなCaféを開いています。手作りのお菓子〔市販の時もありますが（笑）〕とコーヒーでおしゃべりしましょう！だれでもOK、無料ですが、フィリピンの活動のための募金箱を置いています（笑）。人数が多い時は（10人以上）連絡していただくとありがたいです。2人または3人が私の名によって集まるところには、私もその中にいる（マタイ18.20）キリストに出会えますように。

Sr. 山添睦美

スポーツの秋！ 筑後地区レクリエーション大会開催

多くの青年たちも参加！

9月23日（月・振休）、連日の猛暑も和らぎ朝から気持ちの良い青空の中、筑後地区6教会より神父様・シスター方をはじめ総勢200人を超える信徒が、大刀洗勤労者体育センターに集いレクリエーション大会による交流を楽しんだ。昨年より参加者が一段と増え、新しいゲーム内容もあり、小さな子どもから高齢者の方々まで楽しめるプログラムとなっていた。最初に開会挨拶を行った、大会担当司祭の浦川務神父様（今村・本郷教会主任）の〝いろんな教会の方と交わっていきましょう〟というお話が印象に残っている。

久留米教会青年会指導による準備体操の後、自己紹介を交えてチームを分けるためのじゃんけん列車をしながら、笑顔のうちに大会がスタートした。各教会混合の4チームに分かれ、点数を競っていった。ゲーム内容として、オリンピック・パラリンピックを意識してカローリングやペタンクなどが初めて採用され、今までにない歓声が上がり、とても盛り上がった。例年行われている玉入れやスリッパ飛ばし大会も、年齢問わず歓声が上がっていた。〇×クイズでは、2027年に迎える福岡教区創立100周年にちなんだクイズも多く出題されて、信徒の皆さんも一喜一憂していた。

久留米教会青年会のメンバーも数人参加し、ゲーム中の審判の補佐や準備・後片付けを行い、他の教会の信徒の方々との交流を通して、浦川神父様が言われた〝交わり〟が実践できたように感じた。また来年も交流できることを楽しみにしている。

久留米教会　中島　望

姉妹たちと若者で「私に与えられた賜物」を探して

9月23日（月・振休）秋分の日に「シスターと一緒にイエス様の声を聞いてみませんかPart Ⅳ」の集いを開いた。11人の若者が参加した。

今回は〝私に与えられた賜物〟というテーマで、午前中は聖書のタラントンのたとえ話（マタイ25・14―30）を読み、振り返り、グループに分かれて分かち合った。

昼食は修道院の食堂でシスターたちと一緒に食事をし、交流を深めた。午後はショートフィルムを見て感じ、気づいたことを個人で振り返り、グループに分かれて分かち合った。この後のプログラムは「賜物に気づくエクササイズ」で、庭や修道院の裏の河川敷を好きなようにゆっくり歩き回り、「私に与えられた賜物は何か」と問いながら、〈ここに賜物がある〉と感じさせられるものを探し、今の私の賜物だというものに出会ったら持ち帰り、振り返り、全体で分かち合った。見つけた（シンボルを持ってくることができない人は記憶で）シンボルを分かち合う時、清々しさと力強さを感じた。

この集いを通して、一人ひとりが自分に与えられた賜物があることを知った。それが何かまだわからないかもしれないが、自分に与えられた賜物を発見することは、神様をもっと知り、「神様が私を用いようと望んでおられる」ことにも気づくことができる一歩となった。

全てのセッションが終わり、おやつのアイスパーティーでは、共に分かち合った仲間と好きなデコレートで楽しく過ごし、プログラムは終了した。神に感謝!!

聖心のウルスラ宣教女修道会　Sr. 水田由美子

思い思いにアイスを盛り付ける楽しいパーティー

殉教者に祈りを捧げ 水巻・直方教会合同巡礼旅行

9月23日（月・振休）熊本県の花岡山に、水巻・直方教会（主任・谷口尚志神父）信徒54人（子ども4人含む）で合同巡礼に向かいました。巡礼の目的は、私たちの教会が北九州地区にあり、小倉教会で殉教した加賀山隼人にゆかりのある、小笠原玄也とその一家の殉教墓地である花岡山で、江戸時代の厳しいキリシタン弾圧の中、キリストの愛に生きた人々にお祈りをささげることです。

バスは予定通りにまず手取教会（主任・櫻井尚明神父）に到着しました。「あいさつは心の扉を開く鍵」をスローガンとされているとても温かい教会で、ミサの中で申東輝（シン・トウキ）神父様（手取・帯山教会助任）が「今日は祈りの力が通じ、神様の恵みで大変良い天気になりました。このことだけで充分今日は幸せな一日になります」と仰ってくださいました。そして直方教会の2人の子どもが初めて侍者を経験し、上手にミサの手伝いができました。

和やかな食事の後、殉教者墓地を目指し、徒歩グループと車グループにわかれて花岡山へと向かいました。大きな石の下に遺体が実際に埋葬されている、世界でも稀な殉教者の聖なる墓に着き、自らの信念を貫いた先人たちに全員でお祈りをお捧げしました。

この巡礼に参加した方からは「とても有意義な時間を過ごしました。今日の経験をこれからの信仰生活に活かしたいです」との声がありました。

帰りのバスでは談笑したりビンゴゲーム等を行い、楽しく充実した巡礼になりました。

報告＝嶋立陽子（直方教会）

殉教者の墓の前で心を燃やし　記念の集合写真

垣根を越えて一つに 南粕屋教会主催巡礼旅行

10月14日（月･祝）、南粕屋教会（主任：寺浜亮司神父）主催で行われた巡礼旅行には、吉塚教会（主任：寺浜神父）・光丘教会（主任：十時伸治神父）・笹丘教会（主任：マイケル・ヒルデン神父）他、福岡地区のいくつかの教会からも参加があり、総勢80人、大型バス2台で、行楽の秋の1日を感謝と祈りのうちに過ごした。

最初に訪れた武雄教会で出迎えたイ･ハヌン神父（武雄･鹿島教会主任）は、昭和51年に嬉野町の未信者の民家で見つかったという江戸時代の踏み絵と推定されるものを紹介し、この地の殉教の歴史に触れた。そして「巡礼者のための祈り」を捧げ、ルカ福音書24章のエマオの弟子たちの箇所を朗読したのち「巡礼の旅は、時間を割いて歴史を学び、エマオの弟子たちのようにともに歩んでおられるイエスに気付くきっかけとなる」と話し、旅程の安全と成果を願い潅水を行った。次に訪れた鹿島教会では、イ神父主司式、共同司式に寺浜神父・十時神父・ヒルデン神父のミサの後、会場や昼食の準備などで信徒会長をはじめ、信徒や、イ神父が園長を務める鹿島カトリック幼稚園の職員たちからも心からの歓迎ともてなしを受けた。そして昼食時には、イ神父がスクリーンを使って肥前の国の教会と殉教の歴史を説明した。

ミサ説教でのイ神父の言葉「国という垣根を越えて私を迎え入れてくれた皆さんに今日の福音の良きサマリア人が重なる。垣根を越えるということは勇気が必要。また、サマリア人は旅の途中だったが旅はまさに垣根を越える瞬間。人生の旅路を、垣根を越えて一つになるために歩み続けていけたらと思う」が心に残る。「時間をかけて勉強・準備してくれたことだろう」とイ神父に感謝を表していた寺浜神父。信徒がバスを降りるたびに「信仰の忘れ物がないように！」と声をかけて笑わせていたが、信徒の顔には旅程の疲れどころか、時間を追うごとに信仰に満ちた輝きが増していた。帰路の買い物時間も十分に取ってあり、ソフトクリームを片手にあちこちで話に花も咲く、確かに「垣根を越えて一つに」なった巡礼の旅であった。

イ神父（右）へ、ウクライナ支援の一環で、教会で育てているひまわりの苗を贈呈する南粕屋教会・松原勝義信徒会長（左）

BOOK 読みは専科

☆婦人相談員物語～その証言から女たちの歴史を紡ぐ～
村本邦子・松本周子（著）

婦人相談員は売春防止法によって設置され、性暴力、DV、人身売買など、さまざまな困難を抱える女性たちに寄り添ってきた。これまであまり光をあててこられなかった婦人相談員の証言から、相談員たちが出会ってきた女性たちの物語を紡ぎ、女性の苦難とつながりの物語を記録したものである。

国書刊行会発行
税込価格2970円

☆歌え神に 新しい歌
テゼ共同体の歌 第2集

短い単純素朴な歌は「祈り」であり、多くの人の心に安らぎと癒しをもたらします。

サンパウロ 発行
税込価格1210円

社会医療法人 雪の聖母会

聖マリア病院
〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422
TEL.0942(35)3322　FAX.0942(34)3115

聖マリアヘルスケアセンター
〒830-0047 福岡県久留米市津福本町448番5
TEL.0942(35)5522　FAX.0942(34)3306

信仰や理念を共有できる医師、看護師の皆さん
ご一緒に働いてみませんか

URL：http://www.st-mary-med.or.jp/

年間目標　互いに支え合う交わりの教会となる

熊本地震復興支援　西原村復興寄姫（よりひめ）伝説米購入支援のお願い

皆様、いつも温かいご支援をありがとうございます。

加藤ご夫妻

今年は風水害にこそ見舞われませんでしたが、全国的な猛暑が続く中で、中山間地とはいえ西原村滝地区も例外に漏れず、相当の影響を受けた夏でした。ですが宝物であります豊かな水に恵まれ何とか収穫の秋を迎えることが出来ました。ただ、世間を騒がせている深刻な米不足のために、おいしい米が穫れる滝地区に買い出しが殺倒し、激しい争奪戦を繰り広げております。私たちも今までの親しいお付き合いを頼りに今も交渉を続けているのが現状です。

このような状況はNPO法人阿蘇創立以来初めてですが、今まで皆様の温かいお心に支えられて現在があるというご恩を忘れず、皆様に喜んでいただける米をお届けするために精一杯頑張って参ります。

NPO法人・阿蘇　代表：加藤　義明

＊お米の注文は各小教区にある注文書でお申し込み下さい。また右記ＱＲコードからも注文書がダウンロード出来ますのでご活用ください。
※詳細は福岡教区ホームページをご覧ください。
教区ＨＰ　http://fukuoka.catholic.jp/help/

社会福音化委員会「正義と平和・人権」部門
祈りと分かち合いのひととき
フランシスコ教皇の社会的な回勅から学ぶカトリック教会の教え

［日　時］11月23日（土・祝）10時～16時
［場　所］大濠カトリック会館
　　宣教養成センター　※参加無料
［教会助言者］中井 淳 神父（イエズス会）
［問合せ先］☎090・9853・2806（高瀬）
※詳細は右記 QRコードからご確認ください。

マリアの宣教者フランシスコ修道会
―祈りの集い in KUMAMOTO―

［日　時］11月23日（土・祝）14時～17時
［場　所］マリアの宣教者フランシスコ修道会（FMM）
　　熊本修道院（熊本市西区島崎 6-1-27）
［内　容］これこそわたしの望み、これこそわたしの求めていること“宣教の熱意 ブルキナファソ、パキスタンそして・・・”
ゲストスピーカー：Sr. 黒田小夜子（FMM）
［対象者］高校生から40才代まで
［問合せ先］内田雅　inorifmm@outlook.jp
（マリアの宣教者フランシスコ修道会）
※申し込み・詳細は上記 QRコードからご確認ください。

聖心のウルスラ宣教女修道会
ウルスラ祈りの集い

［日　時］11月23日（土・祝）16時から
［場　所］聖心のウルスラ宣教女修道会　聖堂
［問合せ先］☎092・512・0033
（聖心のウルスラ宣教女修道会 福岡修道院）
※詳細は右記 QRコードからご確認ください。

福岡地区司祭団主催　福岡地区研修会
「共に歩む教会のあり方」

［日　時］11月24日（日）14時～16時30分
［場　所］旧福岡カトリック神学院 新館ホール
［講　師］ヨゼフ・アベイヤ司教（福岡教区長）
［問合せ先］☎092・621・2959（吉塚教会）
※「教区宣教司牧方針」をお持ちください。
※詳細は右記 QRコードからご確認ください。

― 召命を共に祈る会 ―

福岡地区　11月19日（火）13時30分～ 大名町教会
〔ミサ〕全爽訓（ジョンソックン）神父（箱崎教会協力・聖ドミニコ会）
〔問合せ先〕☎092・921・4532 山口

北九州地区　11月9日（土）14時～ 小倉教会
〔ミサ〕谷口尚志神父（水巻・直方教会主任）
　　徐（ソ）　仁徳（インドック）神父（若松・戸畑教会主任）
〔問合せ先〕☎0949・24・9905 藤井

熊本地区　11月21日（木）9時30分～ 健軍教会
〔ミサ〕中村信哉神父（健軍教会主任）
〔問合せ先〕☎096・369・8896 松上

― 各種団体の定例会 ―

詳細につきましては、福岡教区ホームページ「教区報11月号」、または右記 QR コードからご確認ください。

福岡教区広報室アドレス
https://fukuoka.catholic.jp
E-mail:cdf-kouhou@nifty.com

案内板　会合と催し

第75回　福岡市民クリスマス

日　時：12月9日（月）　開場 18時　開演 18時30分
場　所：福岡市民会館大ホール
内　容：クリスマスメッセージ

森山信三司教（大分教区長）
北田康広（全盲の賛美伝道者）
クリスマスコンサート
　福岡市民クリスマス聖歌隊による賛美と喜びの歌声

※入場無料
※詳細は右記 QRコードからご確認ください。

真命山諸宗教対話センター　- 祈りの集い -

年間テーマ：聖性への招き
日　　時：11月14日（木）10時～15時
内　　容：義のために迫害される人々は、幸いである
指 導 者：C.クラウディオ神父（聖ザベリオ宣教会）
次　　回：12月12日（木）
内　　容：喜びなさい。大いに喜びなさい。
指 導 者：C.クラウディオ神父（聖ザベリオ宣教会）
問合わせ先：真命山諸宗教対話センター
☎0968・85・3100 FAX 0968・85・3186
熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7
E-mail　shinmeizan@gmail.com
☆個人またはグループでの黙想会、研修会も歓迎いたします（要予約）

11月のこよみ

3日（日）年間第31主日　八代教会司牧訪問
　　八代殉教祭（熊本）
4日（月）教区青年大会（旧カトリック神学院）
5日（火）宗教法人幼稚園理事会
6日（水）司祭生涯養成委員会（東京）
7日（木）常任司教委員会（東京）
8日（金）福岡教区カトリック学校理事長・校長・学長研修会
9日（土）ラテラン教会の献堂
10日（日）年間第32主日　佐賀教会司牧訪問
　　不動山殉教者祈念ミサ祭・
　　ミラノ外国宣教会佐賀宣教70年感謝の集い（佐賀）
11日（月）日韓司教交流会（～14日）
16日（土）福岡地区カトリック女性の会黙想会
17日（日）年間第33主日　貧しい人のための世界祈願日
　　聖書週間（～24日まで）　大牟田教会司牧訪問
19日（火）福岡カトリック学校中堅教職員研修会
22日（金）教区経済問題評議会
24日（日）王であるキリスト　世界青年の日
　　古賀教会堅信式　福岡地区研修会
【12月】
1日（日）待降節第１主日　二日市教会司牧訪問
　　100周年記念誌委員会
■ゴチックは司教日程

※福岡教区で奉仕された司祭の帰天日は右記ＱＲコード、または教区ホームページのカレンダーでご確認ください。

集いの詳細は、各問合せ先にお尋ねください。

■美野島司牧センター
○ホームレスの方に温かい食事と衣類　毎週火曜日10時
○ホームレス支援炊き出し
　第1・第3金曜日
　調理 14時　夜回り 20時
○路上からアパートに入居した方を訪問　第3土曜日14時
〔問合せ先〕☎092・431・1419コース・マルセル神父

■大濠カトリック会館・宣教養成センター
○ミーアサロン大濠
　第1・第3水曜日10時～
〔問合せ先〕☎092・753・6765角田
○みことばのお弁当
　第4木曜日10時～
〔問合せ先〕☎092・753・6765大濠カトリック会館

■社会福音化委員会―正義と平和・人権部門―「祈りと分かち合いのひととき～フランシスコ教皇の社会的な回勅から学ぶカトリック教会の教え」〔日時〕11月23日（土・祝）10時～16時〔場所〕大濠カトリック会館・宣教養成センター〔講師〕中井淳神父（イエズス会）〔問合せ先〕☎090・9583・2806（高瀬）

■宣教養成委員会―「黙想と祈りの集い」テゼの歌と共に
　ろうそくを見つめ、短い歌を繰り返し、静かに黙想する時間を過ごしませんか？
〔日時〕11月28日（木）19時～約1時間〔場所〕大名町教会小聖堂〔問合せ先〕☎080・3227・8295（杣）

編集後記

10月21日（月）・22日（火）、カトリック中央協議会（東京）で開催された全国教区広報担当者会議に参加した。各教区の広報活動の現状と課題などの分かち合いに加え、「広報をめぐる法律の基礎知識」をテーマに、前日の主日ミサでは祭壇奉仕もしてきたという、信者で弁護士の藤田太郎氏から講義を受けた。

最後の派遣ミサで、司教協議会・広報担当の酒井俊弘司教（大阪高松大司教区）は、「多くの学びや気付きをもらったと思いますが、一番いけないことは『明日から頑張ろう』です。先延ばしすることです。今日、今からやりましょう。例えば、紹介された本を帰りに本屋で買って帰るとか」と話されハッとさせられた。司教は、「『今日の別腹は明日の脇腹』という言葉も聞いたことがあるような…」とも付け加え、聖堂は爆笑に包まれた。

お腹いっぱいいただいた恵みというご馳走を、ぷよぷよの脇腹の脂肪にするか、すぐに動いて聖霊に満たされた筋肉に変えるか。さあ、今すぐ、今日からがんばろう！（W）

Chuyến Đi học hỏi và tham gia các hoạt hoạt động của Nhật Bản năm
Giuse Nguyễn Quang Thi (Viet Nam)

Sau 6 tháng học ở Tiểu Chủng Viện Xã Đoài, được nghỉ hè, tôi về quê thăm Ba Mẹ sau một thời gian dài không gặp mặt. Tiện dịp, giúp Ba Mẹ làm vườn cà phê, tiêu và sầu riêng. Ngày 07/07 tôi trở lại Nhật Bản để học hỏi văn hóa, tiếng Nhật và tham gia các hoạt động của Giáo Phận.

Ngày trở lại Giáo xứ Hikarigaoka vào sáng Chúa Nhật, nên có dịp tham dự thánh lễ, gặp gỡ, trò chuyện cùng anh chị em giáo dân. Cuộc gặp gỡ buổi sáng thật vui. Sau đó vào buổi chiều, bớt chợt, tôi thấy bầu trờ thật đẹp. Khung trời buổi hoàng hôn, ánh nắng và mây kết hợp tạo thành hình Thập Giá rất tự nhiên. Mỗi khi nhìn vào bức ảnh này tôi đã nghĩ đến việc Chúa Giêsu Kito luôn hiện diện với chúng ta không chỉ ở trong nhà thờ, nhà nguyện mà Ngài còn hiện diện với chúng ta trong tự nhiên mọi nơi.

ティ神学生の日本語授業の様子

Tiếp theo tuần sau đó, tôi tham gia khóa học tiếng Nhật tại Tòa Giám Mục. Từ khóa học đó, tôi đã được trải nghiệm từ tiếng nhật căn bản đến các văn hóa của Nhật như: Thư Đạo, Trà Đạo... Đó là những trải nghiệm đầu tiên thật tuyệt vời.
Sau 2 tuần học tiếng Nhật, tôi có dịp về lại Giáo xứ Saga, nơi tôi đã từng tham dự thánh lễ suốt 3 năm, khi đang còn sinh sống và làm việc ở Tỉnh Saga. Ở đây, tôi được gặp lại cảnh vật quen thuộc, được gặp bạn bè cũ, và vài anh chị lớn tuổi. Họ đã động viên tôi cố gắng học, và trung thành đi theo Chúa.

Chia tay Giáo xứ Saga, tôi đi Kumamoto miền Amakusa để tham gia cắm trại với các trẻ em. Đó cũng là lần đầu tiên tôi được cắm trại mùa hè ở Nhật. Với khoảng 20 trẻ em tham dự. Trong dịp trại, có khóa học cầu nguyện rất hữu ích cho đời sống cầu nguyện của các em. Có các trò chơi liên quan đến cầu nguyện giúp các em nhớ Kinh Lạy Cha, Kính Mừng, kinh trước và sau bữa ăn... Các trẻ em và tôi đã rất vui.
Trước khi trở về trung tâm thành phố Kumamoto tôi được đi thuyền ngắm cảnh, thời tiết hôm đó rất tốt nên cảnh vật cũng rất đẹp. Tôi đã tạ ơn và ca ngợi những kì công mà Chúa đã dựng nên.

日本語訳は右記から→

Thời gian này, tôi còn tham gia trại hè giới trẻ FYCC (Fukuoka young catholic camp) tổ chức tại Đại Chủng Viện Fukuoka. 3 ngày 2 đêm, ngoài những hoạt động vui chơi, tôi ấn tượng với “Giờ thắp nến cầu nguyện”. Trong giờ cầu nguyện, Giám mục nói về tầm quan trọng của cầu nguyện với Chúa Giêsu và mời gọi mọi người cầu nguyện cho các trẻ em bất hạnh đang chịu ảnh hưởng bởi chiến tranh. Và cầu nguyện cho hòa bình thế giới.
43 ngày ở Fukuoka là trải nghiệm tuyệt vời: đã giúp tôi học được nhiều bài học quý giá, tạo cơ hội cho tôi được gặp gỡ mọi người... Xin cầu nguyện cho tôi luôn trung thành và nhiệt tâm trên con đường bước đi theo Chúa.

福岡教区セクハラ対応窓口

セクハラを受けたら、見かけたら、ご相談ください。ひとりで悩まず、早めに相談

セクシュアル・ハラスメント相談窓口
電話　080-2694-4182
受付時間　月～金（祝日を除く）
10:00～12:00　13:00～16:00